

7:1 モーセは幕屋を設営し終えた日に、これに油注ぎをして、聖別した。そのすべての器具と、祭壇およびそのすべての用具にもそうした。彼がそれらに油注ぎをして聖別したとき、

7:2 イスラエルの族長たち、すなわち一族のかしらたちが近づいた。彼らは部族の長たちで、登録に当たった者たちである。

7:3 彼らは自分たちのささげ物を【主】の前に持って来た。それは覆いのある台車六台と雄牛十二頭で、族長二人につき車一台、一人につき牛一頭であった。彼らはこれを幕屋の前に引いて来た。

7:4 すると【主】はモーセに告げられた。

7:5 「会見の天幕の奉仕に使うために彼らからこれらを受け取り、レビ人にそれぞれの奉仕に応じて渡せ。」

7:6 そこでモーセは台車と雄牛を受け取り、それをレビ人に与えた。

7:7 ゲルション族には、その奉仕に応じて台車二台と雄牛四頭を与え、

7:8 メラリ族には、祭司アロンの子イタマルの監督のもとにある彼らの奉仕に応じて、台車四台と雄牛八頭を与えた。

7:9 しかしケハテ族には何も与えなかった。彼らの聖なるものに関わる奉仕は、肩に担いで運ぶことだったからである。

幕屋は神との会見の場であるので、この世のものとは聖別しなくてはなりません。その聖別は「油注ぎ」とありますが、それは聖霊を表すものです。そしてこれは私たちの礼拝も同じで、聖霊によって油注がれてこそ、礼拝が成り立つのです。

礼拝はただプログラムをこなせば良いというので

はありません。主のみわざが現れることが重要です。それは聖霊による、救い、きよめ、癒し、なぐさめ、希望、そして悪霊への勝利です。聖霊を求めましょう。

ここではたくさんのささげものがあります。それら一つ一つを、主はすべて覚えていてくださいます。私たちも積極的に主の聖なることを表すためにささげましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

